

- 問1 世界の小麦と米の生産状況について、2014年の統計資料に基づいた説明として最も適切なものはどれか選びなさい。（2018年 大阪府公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 小麦の生産量で17.3%、米の生産量で27.9%を占めていずれも世界1位である中国は、巨大な人口を抱えるため国内消費量も多い。 | 2. 乾燥した気候に適した小麦はオーストラリアやフランスが世界1位と2位を占め、温暖湿潤な気候に適した米は中国とインドが上位を占める。 | 3. 小麦の生産量において第3位のロシアや第4位のアメリカ合衆国は、米の生産量においても世界1位または2位を占めている。 | 4. 米の生産量で上位4位に入るインドネシアやバングラデシュは、同様に小麦の生産量においても世界トップクラスである。 |
|--|---|--|--|
- 問2 アジア太平洋経済協力（APEC）に加盟している国々を示した資料において、日本、アメリカ合衆国、オーストラリアとともに国名が挙げられている場合がありますが、次のうち、実際にはAPECに加盟していない国はどれですか。（2023年 京都府公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|------------|------------|---------|
| 1. 日本 | 2. アメリカ合衆国 | 3. オーストラリア | 4. ブラジル |
|-------|------------|------------|---------|
- 問3 南アジアに位置するインドにおいて、全人口の約80%という圧倒的な割合を占め、人々の生活様式や文化に深く結びついている宗教の名称として正しいものを選択してください。（2021年 兵庫県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|-----------|-------|----------|
| 1. イスラム教 | 2. ヒンドゥー教 | 3. 仏教 | 4. キリスト教 |
|----------|-----------|-------|----------|
- 問4 中国では、1970年代後半から「改革・開放」政策が進められ、広東省のシェンチェン（深セン）をはじめとする南部の沿海部に、外国企業の進出や資本・技術の導入を優遇する地域が設けられました。この地域の名称とその設置目的の組み合わせとして、最も適切なものはどれか。（2018年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---------------------------------------|---|--|
| 1. 人民公社 — 土地を国有化し、大規模な集団農業によって農作物の増産を図るため | 2. 自治区 — 少数民族の独自の文化を保護し、伝統的な生活を維持するため | 3. 経済特区 — 内陸部の農村から沿海部への人口流入を阻止し、食料自給率を高めるため | 4. 経済特区 — 外国企業の進出や資本・技術を受け入れ、経済を活性化させるため |
|---|---------------------------------------|---|--|
- 問5 ベトナム政府による外国からの投資を促す政策の内容や、同国への外国企業による投資額の推移をまとめた資料によると、近年、投資額が著しく増加している傾向が見て取れます。このような変化が起きた背景にある、ベトナム政府の経済政策の狙いを説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2023年 宮城県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 東南アジア諸国連合（ASEAN）加盟国以外からの投資を法律で禁止し、域内での経済協力のみに限定した。 | 2. 経済成長に不可欠な外貨や技術を導入するため、外国企業の誘致に向けた環境整備を充実させた。 | 3. 国内企業が国際競争に巻き込まれないよう、外国企業の進出を制限する保護貿易政策を強化した。 | 4. 伝統的な農業を輸出の柱に据えるため、工業への投資を減らして農村部のインフラ整備を最優先した。 |
|---|---|---|---|
- 問6 日本とASEAN加盟国の間には時差が存在します。日本の標準時子午線は東経135度ですが、タイなどは東経105度を標準時としています。この経度の差から生じる、日本とタイの時差と時間の進み方についての説明として正しいものを次から選びなさい。（2024年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--------------------------------------|--|--|
| 1. 緯度の差が大きいので、季節によって時差が変動し、夏の間だけタイの時刻が日本より3時間遅れる | 2. 日本とタイはほぼ同じ経線上に位置しているため、時差は全く発生しない | 3. 経度差が15度あるため1時間の時差が生じ、日本より東にあるタイの時刻は日本より1時間進んでいる | 4. 経度差が30度あるため2時間の時差が生じ、日本より西にあるタイの時刻は日本より2時間遅れている |
|--|--------------------------------------|--|--|
- 問7 東南アジアなどの温暖な地域で広く行われている、同じ土地において1年のうちに同じ農作物（主に稲）を2回収穫する栽培方法を何といいませんか。（2021年 滋賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|--------|---------|-------|
| 1. 二期作 | 2. 二毛作 | 3. 促成栽培 | 4. 転作 |
|--------|--------|---------|-------|
- 問8 タイの工業化が進化した背景について、輸出統計において自動車が大きな割合を占め、その生産の約8割を日本企業が担っているという状況から推察される、経済的な仕組みとして正しいものを次の中から選びなさい。（2019年 高知県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 輸出を制限することで国内での消費を優先させ、伝統的な手工業の保護を最優先する経済政策をとった。 | 2. 日本などの外国企業からの直接投資を積極的に受け入れることで、国内に多くの工場が建設され工業化が進んだ。 | 3. 自国内の資源を有効活用するために、特定の農産物のみを生産するモノカルチャー経済への依存を強めた。 | 4. 海外からの輸入を制限し、国内市場向けの製品のみを製造する輸入代替型の工業化を国家戦略の軸とした。 |
|--|--|---|---|
- 問9 西アジアなどの産油国では、原油価格の変動が国内総生産（GDP）の増減に直接的な影響を与えることが多くあります。このように、特定の天然資源の輸出に経済を過度に依存している産業構造を背景として、価格の下落時に懸念される事態を説明したものを選びなさい。（2016年 山形県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|--|-------------------------------------|
| 1. 輸出による外貨収入が減少し、国家予算の不足や経済成長の鈍化を招く | 2. 資源の希少価値が高まるため、代替産業である農業が急速に発展する | 3. 資源以外の産業が十分に自立しているため、経済全体への影響はほとんどない | 4. 輸入に頼る生活物資の価格が下がり、国民の生活水準が大幅に向上する |
|-------------------------------------|------------------------------------|--|-------------------------------------|
- 問10 世界全体の農産物生産量を示すデータにおいて、アジア州が約9割近くを占める「米」や「茶」のほかに、東南アジアなどでプランテーション（大規模農園）を中心に栽培され、世界生産の多くを占めている作物はどれですか。（2025年 秋田県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|---------|--------|
| 1. てんさい | 2. オリーブ | 3. 天然ゴム | 4. ブドウ |
|---------|---------|---------|--------|
- 問11 南アジアでは、半年ごとに風向きが変化する季節風（モンスーン）の影響を強く受けます。夏にインド洋からヒマラヤ山脈に向かって吹く湿った風が多くの雨をもたらすことを利用して、ガンジス川の中・下流域で盛んに栽培されている農作物を次の中から選びなさい。（2024年 宮城県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|---------|------|-------|
| 1. 小麦 | 2. コーヒー | 3. 米 | 4. 綿花 |
|-------|---------|------|-------|
- 問12 乗用車の生産体制について、日本と、新興国であるインドやブラジルの状況を比較した説明として最も適切なものはどれですか。2016年の統計資料によると、日本の生産上位5社はすべて自国（日本系）企業で占められていますが、インドやブラジルにはこれとは異なる特徴が見られます。（2019年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. インドでは、上位5社のほとんどをアメリカやイタリアなどの欧州企業のみが占めている。 | 2. ブラジルでは、日本系企業が進出しておらず、自国企業と韓国系企業のみで生産が行われている。 | 3. インドやブラジルでは、自国の産業を保護するため、自国メーカーのみで生産を行っている。 | 4. インドやブラジルでは、日本系、韓国系、ドイツ系などの外国資本の企業による生産の割合が高い。 |
|--|---|---|--|